



☆ この春、進路についてやるべきこと ☆

今日は終業式です。自由登校になって2週間余りの間はどんなふうにご過ごしていましたか？

宿題以外の学習に取り組めた人やオープンキャンパスに参加して進路研究ができた人もいますが、多くの方は、「進路のために何かしたいけれど、一体何をしたらいいのか分からない」という状態だと思います。

そんな皆さんのヒントになるような文章を、本校の卒業生に書いてもらうことができましたので紹介したいと思います。

「思考知を究める」

岐阜大学 大学院 応用生物科学研究科 2年生 食品流通科学研究室 荒木一敬



大垣養老高校の皆さんこんにちは。平成23年度の卒業生、荒木一敬です。

私は、食品科学科を卒業した後、推薦制度を利用し、岐阜大学応用生物科学部応用生命科学科に入学しました。この春、4年間の大学生活と2年間の大学院生活を無事終え、卒業します。

私の大学での学問専攻は農産物流通であり、6年間の大学生活で、3本の論文投稿、2つの行政報告書の作成、代表院生としての講義など、様々な活動に携わってきました。結果として、その功績が讃えられ、研究科で2番目の学業優秀者として表彰されることも決定しています。このような充実した大学生活を送れたことで、「岐阜大学に来て本当によかった、飛躍的に成長できた」と日々感じています。進路指導部の先生から、卒業に際しての心境を書き綴って欲しいと依頼されましたので、自分が現在考えていることを皆さんに伝え進路選択の参考にしてほしいと考え筆を執りました。

後輩へ伝えたいことは沢山ありますが、今回はその中でも特に、2つのアドバイスを贈りたいと思います。

まず1点目が、「そもそも大学とはどういう場なのか？」という点についてのアドバイスです。

大学とは、『知力の高い人間が集う場』ではなく、『より高い知力を欲する人間が集う場』です。つまり、「実力があるから大学へ進学する(⇒×)」のではなく、「もっとレベルアップしたいから大学へ進学する(⇒○)」という認識を持つ事が重要なのです。

次に、2つ目のアドバイスが、大学進学によって培われる力についてです。私は大学で、2つの知力を得ました。

まず1つ目の知力が、「専門知」です。これは、高校の専門科目の延長線上にある知力と捉える事が出来ます。例えば私の場合は、食品機能や食品工学など、食品関連の各分野について、より実践的で先進的な知識を深く広範囲に習得しました。

2つ目の知力が、「思考知」です。これは、現象を論理的に推察する知力を指します。私たち人間にとって、「思考する=ストレス」です。そのため、見聞きし感じたそのままをストレートに捉え、現象を平面的に捉える習慣が染みついています。しかしながら現象は、複雑系で様々な要素が重なり合い成立しています。現象の真質を見極め、本質を捉えるためには、論理的な思考が不可欠です。大学では、研究の過程において、自然と論理的思考が鍛錬されるため、思考知が培われる環境が整備されています。私は、この思考知こそが大学教育で培われる最も重要な能力であると考えています。なぜならば、極論、AIによっても補える専門知と異なり、思考知はAIでは補えない、人間のみが発揮する知力であるからです。

大学で習得する専門知と思考知は、実社会で役立つ能力です。是非、高い志を抱いて進学し、同年代の中でも一歩進んだ領域で仕事をこなせる人材へと成長しましょう。

ここまで読んで、「自分も是非大学進学したい」と思った人は、恐れずに推薦入試にチャレンジしてください。成長する意欲があって努力を続ければ、道は必ずと拓けます。後輩の皆さんの健闘を祈ります。頑張ってください。



☆自分が納得できる進路選択をしよう☆

荒木君は、6月の3年進路ガイダンスで岐阜大学の説明担当を引き受けてくれたのが縁で、その後も岐阜大学志望者の支援を継続して行ってくれました。今年の志望者が2人とも合格できたのは、本人たちの努力はもちろんですが、道を示してくれた荒木君の力によるところも大きいと思います。今回も、依頼してから一晩でこの原稿を完成して送ってくれました。後輩のために協力を惜みず、何事にも全力を尽くす彼の生き方に頭が下がります。この春から社会に出る荒木君の益々の活躍を祈ると共に、今後も後続く人が出てくることを願っています。

高度な「思考知」は大学で磨くもののだとして、高校生でも普段から意志をもち頭を使うようにして生活することはできるはずです。そして、就職にしろ進学にしろ「自分が進路を選ぶ」ことが大切です。今自分ができることに精一杯取り組みながら、自分自身が納得できる進路選択ができるようにしましょう。